

令和3年度 宜野湾小学校 校内研修

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」をつくる児童の育成
～読みから表現につなげるための説明的文章の指導を通して～

「主体的・対話的で深く学び合う」児童の育成
～キャリア教育の視点に立った授業改善～

2 主題設定の理由

国際化・情報化の進展により、児童を取り巻く環境も日々目まぐるしく変化している。このような時代において、学校教育には、児童が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。それに際して、今回の学習指導要領では「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」が示された。また、学習の基盤や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、各学校におけるカリキュラム・マネジメント（教科等横断的な学習）を見通して行うことが学習の効果の最大化と示されている。【学指改訂の経緯及び基本方針から。】

それを踏まえ、沖縄県では『問い』が生まれるサポートガイド』を出し、児童から生まれる問いを大切に、そこから主体的な学び手を目指す指針を示した。（示している？）さらに、キャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成が示され、児童のキャリア発達に関する課題の明確化や地域の実態に応じた全体計画の作成、系統的・組織的に行うための各学年における年間指導計画の作成などが挙げられた。【キャリア教育基本方針P11から。】

そこで本校では『主体的・対話的で深く学び合う』児童の育成』を主題に、読みから表現につなげるための説明的文章の指導を通しながら、キャリア教育の視点に立った授業改善を行ってきた。【前年度のサブと校長先生から出された来年度の重点目標、今年度やってきたことを合わせた】

その結果、「考えをつなぐ力を指導することで、友達の考えを踏まえて自分の考えを発表する児童が増えた」、
「対話を通して、思考を広げたり深めたりすることができた」などの成果が挙げられた。しかしながら、「対話的な学びの際に、自分の考えを述べることに難しさを感じている児童がいた」といった課題も残った。

これら成果と課題を踏まえ、昨年度まで道徳の研究で培ってきたものを他教科へもつなげていくこととした。そこで、全国学力・学習状況調査や県到達度調査等を分析した結果、本校では、とりわけ「読み取る力」・「読み取ったものを基に書く力」に課題があることが分かった。それを踏まえ、国語科の説明的文章の指導に力を入れ、またその際は、現学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業づくりを行っていくこととした。

以上のことから、研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』をつくる児童の育成」とし、副題を「読みから表現につなげるための説明的文章の指導を通して」とした。具体的には、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」の3つの視点に基づいて授業の工夫改善に努めていく。

まず、単元の導入において児童に「身に付けたい力」を提示し、また「学習計画」を立てることを通して、学習過程の明確化を図り、児童の「主体的な学び」をつくっていけるようにしていく。その際は、本校で課題として挙げられている「書く力」を高められるような学習活動を設定するようにする。次に、対話が「目的」となるのではなく、思考を広げ深めるための「手段」としての活動となるよう、今年度も継続して教育活動全体を通して「考えをつなぐ力」の指導を行っていき、「思考を広げ深める対話的な学び」を目指していく。さらに、「深い学び」をつくっていけるよう、国語科特有の言葉による「見方・考え方」を、学習のなかで働かせるような指導の工夫を行っていく。研究1年目となった前年度は、主体的な学びを持たせるために、根拠をもとに自分の考えを形成する指導を重点として研究を進めた。2年目の今年度は、形成した考えの交流の持たせ方の指導の工夫を図ること、深い学びにつなげていくようにしていく。そして3年目には、これまで研究してきたものが、児童にどの程度定着しているかを見取り、研究のまとめとしていきたい。

3 本研究で目指す児童像

説明的文章の読みを通して、自分の思いや考えを表現することができ、「考えをつなぐ力」を生かして考えを伝え合うことで、より自分の考えを広げ深めることができる児童

- 【低学年】 自分の考えをもちながら読み、進んで自分の考えを表現することができる児童
- 【中学年】 自分の考えをもちながら読み、友達と考えを伝え合うことができる児童
- 【高学年】 自分の考えをもちながら読み、友達と考えを伝え合うことで、より自分の考えを広げ深めることのできる児童

4 研究仮説

説明的文章において、根拠を基に自分の考えを形成し、交流を持たせる指導の工夫を行うことで、主体的・対話的で深く学ぶ児童が育成できるであろう。

5 年次計画

1年次	主体的な学びを持たせるために、根拠をもとに自分の考えを形成する指導の充実
2年次（今年度）	形成した考えの交流の持たせ方の指導の充実
3年次	研究してきたものが、児童にどの程度定着しているかを見取る。（研究のまとめ）

6 研究の重点と取り組み

(1) 「主体的な学び」を目指す手立て

児童が主体的に学習に取り組むよう、単元の導入において、これから学習していくことの見通しを持つよう「学習計画」を立てるようにする。また、ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのをはっきりさせ、「身に付けたい力」として児童に示すようにする。このように、学習過程の明確化を図ることで、「主体的に学ぶ」児童を目指していく。

(2) 「対話的な学び」を目指す手立て

授業のなかで、教師が対話的な学びの場を設定したとしても、ただ自分の考えを伝え合うだけで終わってしまうと、そこで児童の考えが広がったり深まったりしたとは言えない。対話が「目的」となるのではなく、思考を広げ深めるための「手段」としての活動となるよう、教育活動全体を通して、4つの視点（①「対話的な学び」の前提となる聴く意欲を高める②聴く視点を持たせる・質問するスキルを高める③児童の考えをつなぐ、教師の働きかけ④対話のよさを感じさせる「価値づけ」）を大切に「考えをつなぐ力」の指導を行っていく。

(3) 「深い学び」を目指す手立て

国語科特有の言葉による「見方・考え方」を、学習のなかで働かせるような指導の工夫を行っていく。説明的文章の学習単元において、習得・活用・探究という学びの過程の中で「見方・考え方」を働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげていけるようにする。そのためにも、学習の系統性を把握し、重点を置くべき指導内容を明確にしていく。

7 研究方法

【令和3年度】《研究2年次》

- (1) 研究内容の共通理解・確認
(形成した考えの交流の持たせ方の指導の充実)
- (2) 講師招聘による理論研修の実施
- (3) 授業実践と授業研究会の開催
- (4) 児童の実態把握（アンケート実施）

8 仮説の検証方法

- (1) 授業研究会での研究協議

9 研究の方針

- (1) 研究主題や研究内容について全職員の共通理解のもと、実践的研究を推進する。
- (2) 毎月1回研究推進委員会を持ち、学年の研究の進捗状況や提案事項の検討を行う。
- (3) より研鑽を深めるために、理論研修や授業研究会では指導主事等の講師を招聘したり、外部講師を招聘したりして研究を進め、実践や指導に役立てる。
- (4) 提案授業・検証授業について
 - ① 1学期に、研究内容を踏まえた提案授業を全職員で参観し、その後の授業研究会で共通理解を図る。
 - ② 検証授業においては、隣学年部で行う。
- (6) 2月に研究をまとめ、3月に次年度の方向性を確認する。